

2023年4月9日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第1号(通算3333号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

神様がすべての人と共に
おられることを証していく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

私は知っている。／私を贖う方は生きておられ／後の日に塵の上に立たれる。(ヨブ記 19:25)

イースターレいはい 復活日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏 黙祷

招きの詞 詩編

30編 4節

賛美歌 21-575番「球根の中には」(©JASRAC)

点灯の詞と賛美 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC)

聖書 ヨハネによる福音書 20章 1-18節

賛美歌 21-333番「主の復活、ハレルヤ」(1,2節) (©教団出版局)

復活のリタニー

みんな

賛美歌 21-333番「主の復活、ハレルヤ」(3,4節) (©教団出版局)

メッセージ 「前向きに生きる」

牛田 匡 牧師

聖餐

牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

献げ物 (*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福

牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 30 編 4 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

4主よ、あなたは私の魂を陰府から引き上げ

／墓穴に下る者の中から生かしてくださいました。

点灯の詞と賛美

点灯者① イエスさまの生涯をたどりましょう。(1本目に点灯)

イエスさまは家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされました。

賛美歌 290番「おどり出る姿で」1節

点灯者② イエスさまは、漁師のペトロさんに「網を捨てて私についてきなさい」

と言われました。(2本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」2節

点灯者③ イエスさまは、安息日に病気の人に手当てをされました。(3本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」3節

点灯者④ イエスさまは、この世界の罪のために十字架に掛けられました。(4本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」4節

点灯者⑤ イエスさまは、復活されました(5本目に点灯)

みんな アーメン

賛美歌 290番「おどり出る姿で」5節(6本目に点灯)

聖書 ヨハネによる福音書 20 章 1-18 節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って、彼らに告げた。「誰かが主を墓から取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。」3そこで、ペトロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。4二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子のほうが、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。5身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあるのを見たが、中には入らなかった。6続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。7イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。8それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。9イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかった

のである。¹⁰それから、この弟子たちは家に帰って行った。

¹¹マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中をのぞくと、¹²イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が、一人は頭の方に、一人は足の方に座っているのが見えた。¹³天使たちが、「女よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「誰かが私の主を取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。」¹⁴こう言って後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。¹⁵イエスは言われた。「女よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。」マリアは、園の番人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか、どうぞ、おっしゃってください。私が、あの方を引き取ります。」¹⁶イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。¹⁷イエスは言われた。「私に触れてはいけない。まだ父のもとへ上っていないのだから。私のきょうだいたちのところへ行って、こう言いなさい。『私の父であり、あなたがたの父である方、また、私の神であり、あなたがたの神である方のもとに私は上る』と。」¹⁸マグダラのマリアは弟子たちのところに行き、「私は主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

(脚注 a：別訳「包んだときのままで置いてあった」、b：直訳「主よ」)

(参照：「子どもといっしょにイースター」『礼拝と音楽』臨時増刊 2001 年, 61-64 頁)

復活のリタニー

司式者 神さまは、イエスさまをよみがえらせてくださいました。

苦しみも死も、神さまの手に迎えられます。

みんな 暗くて寒い冬が、春の光に包まれるように。

司式者 イエスさまを葬ったお墓に行く人たちが言いました。

重い石の扉を、誰が開けてくれるのでしょうか。

みんな 石の扉はもう開いています。

司式者 復活のイエスさまに出会った人たちが言いました。

イエスさまは生きて働いておられます。

みんな いのちの扉は、もう開いています。

(参照：『みんなで礼拝 アイディア集』日本キリスト教団出版局 2013 年, 31 頁)

きょうどう いの
共同のお祈り

せんどうしゃ
(先導者)

きょうかい たいせつ とも いの
教会が大切にしていることを、共にお祈りしましょう。

(みんなで)

わたし ひと
私たちは独りではありません。

わたし かみ はたら せかい い
私たちは神が働く世界に生きています。

わたし かみ しん
私たちは神を信じます。

せかい つく かみ いま そうぞう つづ
世界を創られた神は、今も創造のわざを続けています。

かみ ことば にくたい なか こ
神の言は肉体となり、イエス・キリストの中に来られました。

わたし わかい あたら
そして私たちを和解させ、新しくします。

かみ れい わたし すべ いのち なか はたら
神の霊は、私たち全ての命の中に働いています。

わたし かみ しんらい
私たちはこの神を信頼します。†

わたし まね
私たちは招かれています。

かみ とも いっしょ よろこ いわ
神が共にいますことを、一緒に喜び祝うために。

わたし まね
私たちは招かれています。

イエス・キリストの言葉とふるまいに従って生きるために。

わたし まね
私たちは招かれています。

たが たいせつ つか あ へいわ じつげん
互いを大切にし、仕え合い、平和を実現するために。†

わたし まね
私たちは招かれています。

じゅうじか し いた かみ ひと たいせつ ふっかつ
十字架の死に至るまで神と人とを大切にし、復活されて

いま わたし とも とも い
今も私たちと共にいるイエス・キリストと、共に生きるために。

い とき し とき し こ せい
生きている時も、死の時も、そして死を越えた生においても、

かみ わたし とも
神は私たちと共にいます。

わたし ひと
私たちは独りではありません。

かみ かんしゃ
神に感謝します。 アーメン

(cf. The United Church of Canada, "A New Creed" (1968; rev. 1980, 1995.))

平和のあいさつ

(先導者)

イエス・キリストの言葉。

「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、きょうだい自分が
恨みを抱いていることをそこで思い出したなら、その供え物
を祭壇の前に置き、まず行って、きょうだいと仲直りをし、
それから帰って来て、供え物を献げなさい。」(マタイ 5:23-24)

このイエス・キリストの教えに従って、パンとぶどう酒の献げ物
をする前に、互いに「平和のあいさつ」を交わして、和解とゆるしを
確かめ合しましょう。

(席から立てる人は移動して、お互いに「平和がありますように」「神様
の恵みがありますように」などの言葉を語りながら、平和のあいさつ
を交わしましょう。ウイルス感染予防のために握手はお控えください)

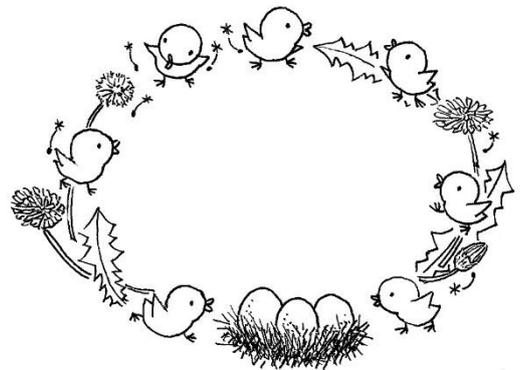
主の祈り

(先導者)

私たちはみな神様の子どもです。神様に信頼して、
イエス様が教えられたといわれるお祈りを、共に祈りましょう。
それぞれの方がお祈りしやすい言葉で、お祈りください。

(以下、みんなで)

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに、
地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を
今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしくください。
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。
アーメン。



(日本聖公会・カトリック教会共同訳)

《コラム》 「イースター」

今年は4月9日から5月27日までが「復活節」です。でも「イースター」って何だかよく分からない、っていうことはありませんか。「イースター」について、分かりやすく説明している文章を紹介します。

* 「イースター」って何ですか？

◇イエスさまがよみがえった日のことです。

イースターは、十字架の上で息を引き取ったイエスさまが三日目の朝に「よみがえられたこと」をお祝いするキリスト教の中で最も大切な日です。

クリスマスは毎年12月25日と決められています。これを「固定祝日」と呼んでいます。しかし、イースターは毎年、「春分の日直後の満月の次の日曜日」と定められているので、最も早い年で3月22日、最も遅い日付で4月25日となります。これを「移動祝日」と呼んでいます。

イエスさまが無実の罪で十字架につけられたのが、金曜日の朝9時で、午後3時に息を引き取られたと聖書には記されています。そして墓におさめられたのが金曜日の日没の直前、そして三日目の日曜日の朝によみがえられた、というのがイースターのお話です。

春分の日にはゲルマン民話の春の女神オスタラの祝祭日でもありました。そのオスタラが変化してドイツ語では「オステルン」、英語では「イースター」と呼ばれるようになったと言われています。

死んでいたのによみがえった、ということで「卵」がシンボルとして使われ、また春分の日を境にしてうさぎが子育てをすることから、「うさぎ」がイースターのシンボルともなりました。

(塚本潤一『今さら人に聞けないキリスト教 —よくわからないキリスト教のことば—』キリスト教保育連盟関西西部会大阪区2016年7ページ)

私の聖書の読み方では、①「空っぽのお墓」とは、全ての命の創り主である神さまは（イエスさまの命は）、決して「肉体の死」では終わらない、お墓の中に留まっておかない、今も生きて私たちと共にいてくださって、私たちの間に働いてくださっている、ということ。②「復活の主」は、地面を這っていた幼虫が「サナギ」になってから、その「サナギ」の殻を破って、蝶となって空に羽ばたいていくように、「肉体の死」を通して、私たちみんなの間に羽ばたいてくださる神さまの姿だと思います（だから幼虫の頃の姿や、空っぽになったサナギの殻を探しても、そこには復活された神さまの姿はありません）。「イースター」の時期に、死から復活されて、死を超えて今も、いつも共にいてくださる神様に思いをはせたいと願っています。（牛田匡）

《先週のメッセージより》4月2日 棕^{しゅうろ}の主日（受難節第6主日）礼拝

「痛みに行く末」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 イザヤ書 50章4-9節

「苦しみのなかで痛みを負っていても、苦難に耐え、神の救いを信じて歩もう」。福音書に収められたイエスの言葉（例.マタイ 5:39）、あるいはパウロの手紙の言葉（例.ロマ 5:3-5）とあいまって、本日の御言葉からは、そんな「キリスト教っぽい」メッセージが響いてきそう。けれど、少し立ち止まって考えてみたい。この言葉が語られた背景。そして、この言葉を発している人物の人となり。時代はバビロン捕囚の後期。祖国を失い、見知らぬ国での生活を強いられていた人々を前に、言葉を発した語り手は、見ていた、知っていた、聴いていた。当時の社会で、弱く、貧しく、小さくされていた人たちの存在を、声を、苦しみを。9節の後半には、聞き手に対する警告の意味合いを持つ言葉が記されているが、それが警告としてインパクトを持つのは、当時、その状況にあった人たちが実際にいたということだろう。「衣のように擦り切れ、虫が食い尽くした」。それは、痛みを抱えながら、逆らいたくても逆らえず、退きたくても退けず、差し出したいけれども差し出さざるをえず、これ以上耐えることができないけれども耐えざるをえない、そんな苦しみのなかを生きていた、弱く貧しくされた人たちの現実の姿。

語り手は単に見て知っていただけではない。その人自身が、弱く貧しくされた一人だった。イザヤ書の別の箇所では記される語り手の人物像。「その姿は損なわれ、人のようではなく、姿形は人の子らとは違っていた」（52:14）。「軽蔑され、人々に見捨てられ、痛みの人で、病を知っていた。人々から顔を背けられるほど軽蔑され」（53:3）ていた。その人物が、自分と同じ境遇で苦しむ者たちの声を受けて、そのまなざしに見つめられて、言葉を紡ぐ。「我々は共に立とう。主なる神が助けてくださる。その方が近くにいる」

神の救いは、持てる人、余裕のある人、強さに満ち溢れた人たちの側からもたらされるものではない。弱く貧しくされた人たちの側から、その声が、姿が、命の輝きが満ちる場所から、救いの道が開かれていく。その道は、すでに開かれている。人となった神の子イエス。当時の社会で最も小さくされ、苦しみの中に生きる者たちと共にあったイエス。自らも苦しみと痛みを負い、十字架の重みを背負ったイエス。今、このとき、この場所で、イエスの声と言葉と共に、社会の中で、世界の中で、小さく、弱く貧しくされている人たちの声と言葉が響いている。その声と言葉、届いているだろうか。受けて止めているだろうか。応えているだろうか。イエスによって開かれた救いの道、共に歩んでいきたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 (4月2日 棕櫚の主日礼拝)

礼拝出席 大人4名 献金 大人5,000円 中継動画再生数7回 感謝

◎次週 2023年4月16日(日)復活節第2主日礼拝

招きの詞 ヨハネの黙示録 19章 6b-8節

聖書 ルカによる福音書 24章 13-35節

メッセージ「なぜ暗い顔で？」水谷憲牧師

賛美歌 8番(©讚美歌委員会)、326番(©P.D.)、57番(©JASRAC)

礼拝後に、2023年度定期教会総会を開催いたします。

◎お知らせ

- ・一週間遅れの日程になりますが、次週4月15日(土)10時半~11時半ごろまで、子どもたちを対象とした「キッズ・イースター」の集まりを開催します。
- ・大阪府の新型コロナ警戒信号は「緑色」に変更され、マスクの着用も個人の判断に任せられるようになりました。引き続き感染症予防には留意しながら、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。

◎公告

次週4月16日(日)の礼拝後に、2023年度定期教会総会を開催いたします。議案は、以下のように予定しています。

【第1号議案：総会議長及び総会書記選出に関する件】

【第2号議案：組織】【第3号議案：2022年度教勢報告の承認に関する件】

【第4号議案：2022年度教会活動報告の承認に関する件】

【第5号議案：2022年度教会会計決算の承認に関する件】

【第6号議案：主任担任教師の任期更新(2024-26年度)に関する件】

【第7号議案：2023年度の主任・担任・協力教師への謝儀等に関する件】

【第8号議案：2023年度教会活動の計画の承認に関する件】

【第9号議案：2023年度教会会計予算の決定に関する件】

【第10号議案：2023年度CS会計予算の決定に関する件】

【第11号議案：役員(2023-24年度)選挙に関する件】

【第12号議案：教区総会出席議員の選出に関する件】

【第13号議案：その他に関する件】

教会員の皆様は、どうぞご予定ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
4/16	水谷牧師	(第二好意庭 感謝祝福式・牛田牧師) 定期教会総会
4/23	牛田牧師	おにぎり支援
4/30	岡嶋伝道師	誕生者祝福式
5/7	牛田牧師	ユーカリスト・教会を考える会

